



キャンパス・コンソーシアム函館  
合同公開講座

## 函館学 2025

第4回講座

講義資料

函館で生涯を終えたロシア人を通して見た  
20世紀前半の函館

講師：倉田 有佳

ロシア極東連邦総合大学函館校 教授

日時：令和7年10月25日（土）

13：30～15：00

会場：函館市地域交流まちづくりセンター

主催：キャンパス・コンソーシアム函館



## キャンパス・コンソーシアム函館 合同公開講座

倉田 有佳（くらた ゆか）  
ロシア極東連邦総合大学函館校 教授

### 講師略歴

モスクワ大学歴史学部大学院修了（歴史博士）、北海道大学文学研究科歴史地域文化学専攻博士課程後期終了（学術博士）。

静岡県生まれ。2013年4月ロシア極東連邦総合大学函館校准教授、2018年4月から現職。

専門は日ロ関係史。函館日ロ交流史研究会代表世話人。

主な著作：

「20世紀の在函館 ロシア(ソ連)領事館」『ドラマチック・ロシア in Japan II』生活ジャーナル、2012年。

「東洋学院を卒業した函館領事レベデフ」『日露異色の群像30 文化・相互理解に尽くした人々』東洋書店、2014年。

「樺太残留ロシア人との関わりから考える明治末年の東京の「ロシヤパン」ブーム」『パン文化研究』2号（2019年）。

「ヨシフ・ゴシケーヴィチ（1814-1875）一日露の縁を繋いだ初代駐日ロシア領事の若き日々」『続々日露異色の群像30—文化・相互理解に尽くした人々—』生活ジャーナル、2019年。

「北サハリンから日本へ避難・移住したロシア人 1924-1925年」『スラヴ・ユーラシア叢書16 日本帝国の膨張と縮小—シベリア出兵とサハリン・樺太』北海道大学出版会、2023年。

「函館に開設された初代駐日ロシア領事館に海軍から派遣されてきた三人の「見習い水兵」」『函館日ロ交流史研究会 会報』No. 44（2023年）。

「20世紀前半の函館のロシアパン売りに携わった旧教徒たち」『函館日ロ交流史研究会 会報』No. 46（2025年）。

# 函館で生涯を終えたロシア人を通して見た20世紀前半の函館

## ・はじめに

### ◆ 19世紀後半～20世紀初頭の函館のロシア人

- ・ ロシア領事館関係者・ロシア語教師（お雇い外国人）・宣教師・漁業家
- ・ 寄港したロシア海軍軍人・漁業関係者（漁場の労働者）

### ◆ 20世紀前半の函館のロシア人

- ・ 旧教徒／古儀式派（宗教亡命者）
- ・ 白系ロシア人（政治亡命者）

## 1. 20世紀前半函館の白系ロシア人の特徴

- ・ 1917年のロシア革命、続く国内戦争の混乱の中で約150万人がロシアを離れる
- ・ 1925年の157人（函館在住白系ロシア人の最大値）
- ・ 露領漁業の出漁基地⇒天然の良港＋カムチャツカ、ウラジオストクとの結節点、ロシア語の高い需要
- ・ ハリストス正教会（元町）は亡命者の精神的支柱
- ・ 21世紀の在日ロシア人との相違点

## 2. 函館で生涯を終えた白系ロシア人

- （1）ロシア人家族：アルハンゲリスキー、シュウエツ、ズヴェーレフ
- （2）夫が日本人：成田ケイ子（ナデージダ）、入間川勝子（エフロシーニャ）、長谷川光子（ナデージダ）
- （3）妻が日本人：サファイロフ、カロリョフ

※着目点：①出生地 ①来函直前の居住地・職業 ②来函時期と来函の経緯

③来函後の職業（本人／配偶者） ④家族 ⑤没年・墓地

## 3. 白系ロシア人を通して見えてくる20世紀前半の函館

- ・ 1925年1月20日 日ソ基本条約締結→ソ連領事館（船見町）の開設、国籍選択、「白」と「赤」
- ・ 1932年秋 ソ連極東の収容所から脱出・漂着者
- ・ 1934年 「昭和9年の函館大火」
- ・ 函館の幼稚園小中学校に通う亡命第二世代

## ・おわりに

## 主な参考文献

- ①ア・ニ・カラリョフ(高瀬生訳)「将来の露語研究(北洋同志会露語講習会閉会式に於ける演説)」『北洋』第11号(1940年)、66 - 74頁。
- ②大野吉雄「二つの祖国 カロリョフさんのこと」『地域史研究はこだて』第16号(1992年)、82 - 89頁。
- ③亀井勝一郎「白系ロシア人」『亀井勝一郎全集』第13巻、講談社、1971年(初出は1938年11月『月刊ロシア』)。
- ④函商百年史編集委員会編『函商百年史』北海道函館商業高等学校創立百周年記念協賛会発行(非売品)、1989年。
- ⑤小山内道子「ガリーナ・アセーエヴァの歩んだ遠い道のりをたどって」『「函館とロシアの交流」函館日ロ交流史研究会創立10周年記念』函館日ロ交流史研究会編・発行、2004年、30 - 41頁。
- ⑥ガリーナ・アセーエヴァ(旧姓ズヴェーレヴァ)、通訳・記録小山内道子「函館で暮らした頃の思い出」『「函館とロシアの交流」函館日ロ交流史研究会創立10周年記念』42 - 52頁。
- ⑦倉田有佳「1930年代はじめのソ連極東から日本への漂流・脱出者」『地域史研究はこだて』第28号(1998年)、16(14) - 29(1)頁。
- ⑧倉田有佳「ロシア系日本人—100年の歴史から見えてくるもの『マルチ・エスニック・ジャパニーズ〇〇系日本人の変革力』明石書店、2016年、189 - 202頁。
- ⑨倉田有佳「ロシア避難民と日本の受入れ策(一九一七—一九二五年)」『ロシア史研究』ロシア史研究会、第103号(2019年)、21 - 45頁。
- ⑩斎藤一郎「ロシア語通訳の見た北洋漁業」『地域史研究はこだて』第14号(1991年)、79 - 91頁。
- ⑪佐藤一成「北海道函館商業学校ロシア語担当教員中、最近当時の状況が判明した3名について」『函館日ロ交流史研究会 会報』第21号(2002年)。
- ⑫佐藤一成「庁立函館商業学校最後のロシア人講師—成田ナヂェーダさんのこと—」『「函館とロシアの交流」函館日ロ交流史研究会創立10周年記念』21 - 23頁。
- ⑬清水恵「サハリンから日本への亡命者—シュウエツ家を中心に—」『異郷に生きる—来日ロシア人の足跡』成文社、2001年、77 - 87頁。
- ⑭清水恵『函館・ロシア その交流の軌跡』函館日ロ交流史研究会、2005年。
- ⑮田尻聡子「百万本のバラの花—函館における亡命ロシア人サファイロフさん ワーシャー」『道南女性史研究』第9号(1992年)、55 - 70頁。
- ⑯「函館一の仲よい夫婦 日露人のロマンス」『ニコニコクラブ 特輯号』第12巻第6号(1929年8月)、14 - 15頁。
- ⑰函館市史編さん室編『函館市史 通説編』第4巻、函館市、2002年。
- ⑱函館ハリストス正教会史編集委員会編『函館ハリストス正教会史 亜使徒日本の大主教聖ニコライ渡来150年記念』2011年。
- ⑲「ワシリー・ワシリーウィチ・アルハンゲリスキー氏の急逝を惜しみ、その精勤と学殖とを景仰す。」『北洋』第10号(1939年)、北洋同志会。
- ⑳馬場脩『函館外人墓地』図書裡会、1976年。
- ㉑『北洋漁業』第3巻1号(1942年1月号)、露領水産組合。